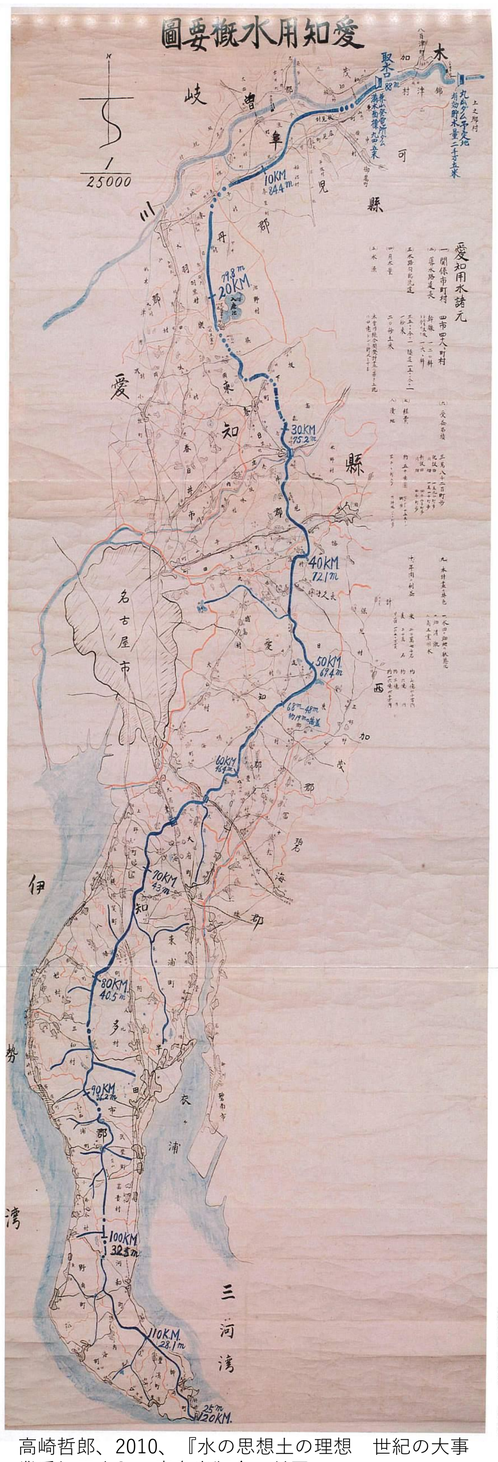
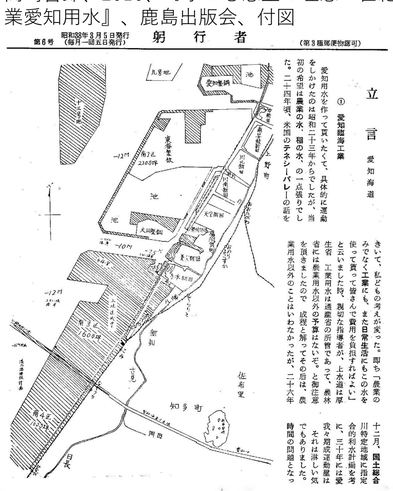
「愛知用水の久野庄太郎」の地域総合開発思想
ー愛知用水と愛知海道の関係性に着目してー

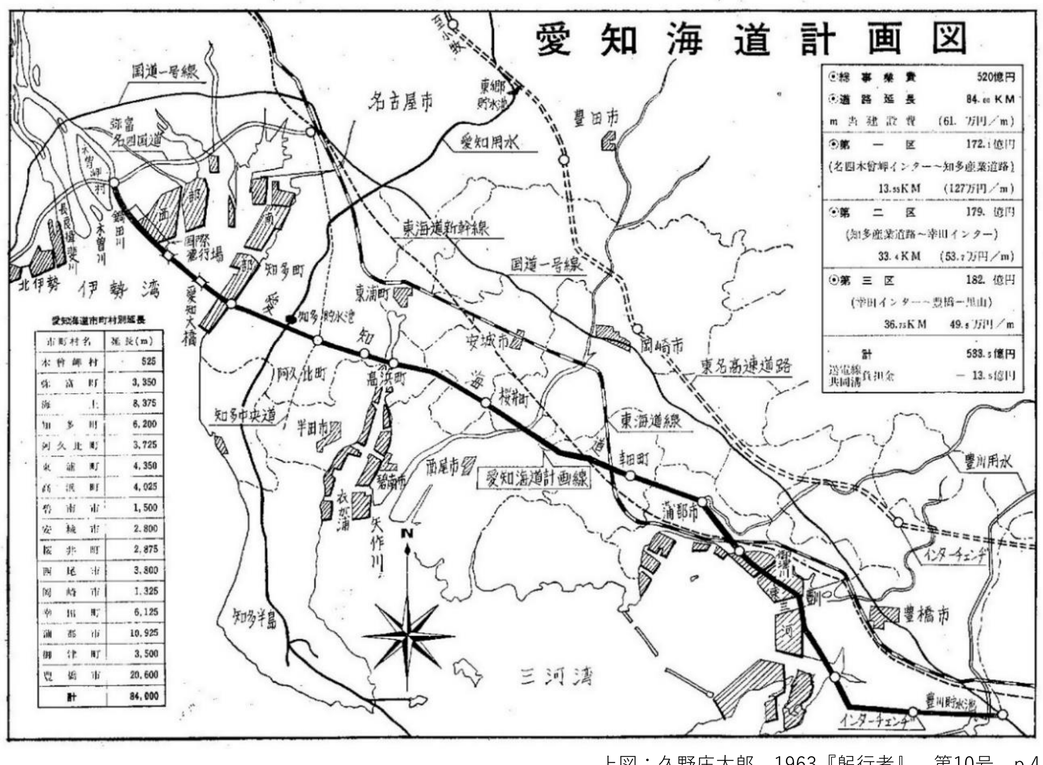
歩く仲間　柴田英知　bxf00517@nifty.com



高崎哲郎、2010、『水の思想土の理想　世紀の大事業愛知用水』、鹿島出版会、付図



左図：久野庄太郎、1963『躬行者』、第6号、p.2.



上図：久野庄太郎、1963『躬行者』、第10号、p.4.

＜参考資料＞

高崎哲郎、2010、『水の思想土の理想 世紀の大事業 愛知用水』、鹿島出版会
筒井栄太郎編著、1969、『手弁当人生ー愛知用水と久野庄太郎』、黎明書房
久野庄太郎、1988、『躬行者総集編』、交友社
愛知用水土地改良区編、2002、『愛知用水土地改良区五十年の歩み』、愛知用水土地改良区
浜島辰雄編著、2005、『愛知用水と不老会－用水建設にかけた久野庄太郎と仲間たち』、不老会創立四十周年記念事業推進委員会　不老会

柴田英知、2022、『久野庄太郎の地域総合開発構想における愛知用水と愛知海道（第二東海道）の関連性－個人雑誌『躬行者』の記述をてがかりとしてー』、名古屋市立大学大学院、『人間文化研究』第37号、pp.49-87.

柴田英知、2022、『「愛知用水の久野庄太郎」の悟りと再起－ 一燈園への隠栖と小冊子『光水（旅行）漫録』の誕生－』、名古屋市立大学大学院、『人間文化研究』第38号、pp.47-81.

1．愛知用水建設の経緯

第二次世界大戦後、知多半島の八幡町（現知多市）の篤農家**久野庄太郎**（1900―1997）は、47歳の時に、数年おきに干ばつがおこる河川のない知多半島で、恒常的に農業ができるように木曽川から用水路を引くことを決意しました。1948年5月5日に、農聖といわれていた安城農林学校の初代校長をしていた**山崎延吉**の家で開かれた「つつじの会」という篤農家のあつまりで、用水建設の決意を語ります。山崎は、久野の決意の固いのをみると、彼がもつ中央政界や、農林省、大学などに農業関係者の強いコネクションをもって全面的にサポートすることを約束します。

ところで、知多半島の東側の碧海郡は、大正時代から昭和の初期にかけて、**日本デンマーク**とよばれ、日本の農業先進地域として、全国に知られていました。それは、①明治用水による灌漑が可能になったこと、②国鉄（安城）の駅があり、農産物の遠隔地への出荷が可能となったこと、③農業教育機関や試験場などの集積、③農業の共同化と農産物のブランド化をはかったこと、④多角的経営により通年の収入を可能にしたことによるといわれています。

大府に住む安城農林学校の教師で農業技術者の**浜島辰雄**（1916－2013）は、用水候補地を徒歩と自転車でまわって精密な予定路線を、1／25,000の地形図に書き、額装します。その幅は180㎝で長さは350㎝におよびます。（左の図は、高崎哲郎、2010、『水の思想土の理想　世紀の大事業愛知用水』、鹿島出版会の付図）

久野らは、まず農民グループで運動をはじめましたが、マスコミや地元の市町村を巻き込んでいきます。1948年10月には、早くも地方自治体の長からなる愛知用水建設期成同盟会を結成して、地元住民への説明と東京への陳情をおこないます。愛知県では、**桑原幹根**知事、半田の森信蔵市長、三河では、久野源蔵元三好町長が、強力なリーダーシップをとって事業を推進しました。1948年の冬には、知多半島の市町村と県への話しを通して、初めての東京陳情をおこないました。岸信介と期成会の緋田工が知り合いであったことから、偶然にも、首相官邸で、当時の**吉田茂**首相に面談することができました。（岸の弟の佐藤栄作が官房長官でした。）吉田は、「食糧増産、失業対策、よいではないか！」と大声をあげて、大乗り気になったそうです。

地元住民への説明会では、小学校の講堂などに集まってもらって、「都築弥厚の明治用水の建設悲話」を安城の浪曲師が口上した後に、大図面を広げて、愛知用水の説明をしたそうです。久野によると、愛知用水が着工するまでに、のべ1,000回以上も説明会をおこなったといっています。また、愛知用水土地改良区の設立にあたっては、約40,000戸から、2回にわたって建設同意書の取り付けをおこなっています。（土地改良区の設立時と愛知用水公団による国営事業化が決まった時）

1949年には、山崎から紹介された元農林大臣の**石黒忠篤**から**テネシー川流域開発公社（TVA）**による多目的ダムによる水資源の総合的な管理と地域開発を学びます。TVAには強力な権限が与えられており、しかも地域住民と専門家による「草の根民主主義」による地域づくりが推奨されました。期成会は、**「水と共に文化を流さん」**をスローガンに、**日本デンマーク**と**TVA**をお手本にした地域開発啓蒙のチラシを住民に配り、地元の事業への理解を求めました。

1955年10月に成立した愛知用水公団（のちに現水資源機構が継承）は、世界銀行の融資の受け皿となります。愛知用水公団は、愛知県・岐阜・長野県と関連する地方自治体と協働して、わずか5年の工期で、牧尾ダム、約112kmの幹線水路、約1,200kmの支線水路を建設しました。1961年9月に完工式。農業用水の利用は、1962年5月1日からとなります。多くの人びとの協力と努力で、愛知用水は、発願から、わずか13年で完成します。しかし久野は、事業の失敗で、1954年から1961年まで破産宣告を受け、愛知用水運動の一線から身を引きます。

2．愛知用水が完成した後に、久野庄太郎がおこなったこと

①名古屋南港臨海工業地帯

農民負担金を少なくするために、知多北部の三町で愛知用水を利用した臨海工業地帯の誘致をおこなった。

②愛知海道（第二東海道）

三河の内陸部で「農工一体」の地域開発をするために、自動車専用道路の建設推進につとめた。

③開発コンサルタント会社の設立

愛知用水公団の元職員と共に建設コンサルタント会社を設立して、国内外の地域開発に従事した。

④ 不老会（ボランティア組織）

医学教育と研究のためにみずからの遺体を大学の医学部に献体する団体を設立した。

⑤ 愛知用水観音の建立

愛知用水工事の犠牲者となった57名の慰霊のために、ダムサイトと水路の土で、常滑の陶芸家の柴山清風に仏像をつくってもらった。本尊は佐布里池の湖畔に、岐阜県の兼山取水口などにも安置されている。

3．愛知海道とは

①なぜ愛知海道をやろうと思ったのか。

愛知用水を愛知県から国に陳情するのにあたって、西三河地域には何のメリットもないのに応援してくれたことに対して、久野庄太郎が報恩したいと思ったため。愛知用水の建設に関して、国と県と受益者それぞれ三分の一の費用負担が必要だったのです。東三河は愛知用水が持ち上がる前から天竜川を利水する豊川用水事業がありましたが、西三河には、そのような事業計画がありませんでした。

②愛知海道の計画

1960年当時、名古屋と四日市を結ぶ名四国道が工事中で、豊橋を中心とする東三河新産業都市計画で豊橋と蒲郡間の自動車道路の計画がありました。その間を東西にまっすぐにつなぐ自動車専用道路が、愛知海道です。当時、政府は、愛知用水と同じく世銀の借款でつくられた名神高速道路の延伸として、中央道案（現・中央高速道路）、国道1号線の山側の東名道（現・東名高速道路）と1号線の海側の東海道海岸道の3路線を検討していました。中央道と東名道の建設が1962年に決まったのですが、まさにその時期に、久野は採択されなかった東海道海岸道（愛知海道）の建設推進運動をしていたのです。

③愛知海道の構造

幅60メートルの幅に上下それぞれ2車線の5メートル幅の道路の中央に17メートルの離隔帯を設けて、その上空に送電線を、地下に上水道、工業用水管、下水管、石油菅、ガス管、電話線などを埋設し、その上は緑地帯にします。道路の左右2キロ、つまり両側4キロを区画整理して、二割の減歩で60メートルの道幅を出すように、沿線の地方自治体と住民に働きかけました。つまり、久野は地主に対して地価の上昇により元は取れると言うと同時に、区画整理によって優秀なる大工業を誘致して、農工一体の郷土開発をしようとしたのです。

④愛知海道のその後

これまで述べたことは、久野庄太郎が残した一人雑誌の『躬行者』に書かれたことから再現した当時の歴史です。久野が第100号をもって『躬行者』の発行をやめた1971年2月の時点では、愛知海道はまったく実現の目途が立っていませんでした。しかし、沿線の地方自治体がそれぞれ地権者対策をおこなって、いくつかの自治体では道路建設の同意を1960年代の時点でとっていたことが明らかになっています。

つまり、この50年前の働きかけが、その後の愛知県の、特に三河地域のトヨタグループの工場建設や道路網の整備、さらには今日の伊勢湾岸道や国道23号線バイパス（名豊道路）の路線の下敷きとなったことは間違いがありません。なぜならば、愛知海道建設期成会は関連する市町村のみならず、中部経済界も巻き込んだネットワークを50年前の時点ですでに築いていたからです。

4．個人雑誌『躬行者』の発行

久野庄太郎が残した個人雑誌『躬行者』では、愛知用水と愛知海道建設推進や不老会についての心構えや経験、人生訓などが、1962年10月から1971年2月まで毎月5日に100号にわたって発行されました。最盛期には、16,500部も印刷され、全国の宮家から政治家、官僚、農民仲間などに郵送されました。この詳細を検討することにより、愛知用水や愛知海道の建設推進を通じて体得された久野庄太郎の地域総合開発思想といったものがみえてくると考えられます。